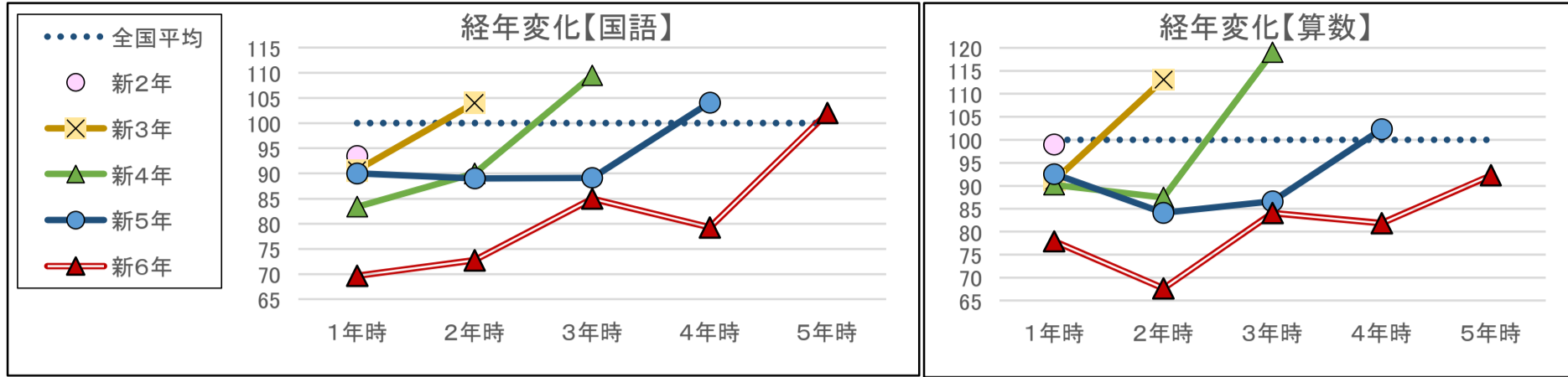


## I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

### ① 各学年の標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、3～6年生を対象に標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に1・2年生においても実施しています。



### ② 学校の状況

□本校児童の傾向として「言葉の学習」に総じて課題がみられていたが、日常的な読書や読み聞かせの指導、朝学習や授業、放課後学習等でまとまった文章を読むことやテーマや条件を与えて書くこと（タブレットで打ち込むこと）等の経験を多く積ませることで改善の傾向がみられた。

□家庭での会話量や会話の内容、言語環境に影響を受けている部分は依然として大きいので、授業において言語環境を整えること、児童の「言葉の力」を培うような学習内容に取り組みせることを行ってきたので、今後も継続する必要がある。また、「話の内容を聞き取る」ことに課題がある学年が多いので、今後は「聞く・聴く」ことにより重点をかけていく必要も感じている。

□算数科においては、「数と計算」の領域に課題があったが、授業改善はもとより朝学習や「おたけん」、放課後学習などと連動させ、基礎・基本の定着を図ってきたことが結果となって現れた。思考・判断・表現の力についても全学年で伸びが見られた一方、伸び幅が小さい学年もあった。

□本校において、「学校のきまりを守る」「家の人と決めた約束やきまりを守っている」という児童（6年生調べ）が9割以上いるなど規範意識は高い。また、今年度学校全体で力を入れて指導してきた「挨拶」についても子供自身が「できている」と感じる割合が9割以上となっており、学校での粘り強い取組が学力も押し上げたと分析している。しかし、依然として家族とのコミュニケーションが不足しがちで、努力や善い行いを十分に評価してもらっていない児童が一定数おり、自分に自信が持てない様子がうかがえるため、学校での様々な取組により自己存在感、自己有用感を味わわせていく必要がある。

□今年度は研究主題を設定し、その主題達成のために課題となる事項を洗い出し、課題解決型の校内研修を行いながら授業改善に努めてきた。授業や児童についての話を放課後の職員室でしている場面も多くなり、少しずつではあるが授業改善が進んできた。

## II 今年度の学力向上に係る重点取組

### ① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学ぶ意味と学ぶ楽しさが感じられる授業へのブラッシュアップ。具体的には、優れた授業実践を「見る」機会を多く設けたり、校内研修を個人課題を解決する課題解決型研修としてさらに充実させていくこと、自身の授業の振り返りをしっかり行っていくこと等。</li> <li>・ 「単元全体のマネジメント・1単位時間のタイムマネジメント」、「授業における思考力・判断力・表現力等の育成」に課題があるので単元構想をしっかりと行い、「問い・発問」の精選、思考したことを表現する学び合いの場の充実を図る。</li> <li>・ 総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムマネジメントの充実を図り、教科横断的な視点、地域や生活に根ざした学びの視点をもちながら各教科経営に当たること。そのための教師の学び合い。</li> <li>・ 教材研究の充実を図ること。教材教具の共有化を進め、時間をかけるべきところに時間をしっかりとかけながら、児童が本時「何を学ぶべきか」を自覚し、「何を学んだか」が言える授業づくりを行う。</li> <li>・ わからないこと、できないことをそのままにせず、自らの学ぶ権利としてできるまで学習する、ということを見守り共有する。</li> <li>・ ICTの効果的な活用を一層進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶、返事、廊下歩行のルール、履き物を揃える、身の回りの整理整頓をするなど、当たり前のことが当たり前にできるよう、今後も継続して、全教職員が同歩調で指導を行う。できていることを価値付け、できた喜びを共有する教職員と児童であるよう、日常的な信頼関係の構築を大切にする。</li> <li>・ チャレンジすることをためらわず、小さなチャレンジでも価値のあることとして称賛し、子供たち一人一人の「やる気」に灯をともし教育の実践。各々のチャレンジを喜び合う機会の設定。</li> <li>・ 本校の重点目標のひとつである「思いやり・優しさ」の第一歩は相手の話に耳を傾け、相手の心を慮ることである。このことから、「話すこと・聞くこと」について、相手意識を持つよう指導していく。</li> <li>・ 愛情と信頼、友情を基盤とした学級経営を行い、学校が児童一人ひとりの居場所、心のよりどころとなるよう引き続き努力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書タイムをより充実させ、隙間時間や業間にも進んで本を読む習慣をつける。給食後やテスト後などの隙間時間に読書を行うことを全教職員が揃えて指導する。</li> <li>・ 朝学習では、授業との連動や、前時までの学びを復習や、定着が不十分などの補充など、明確な意図をもって丁寧に取り組む。その際、適宜ICTを活用し、より効果的に進める。</li> <li>・ 放課後学習サポート「まなびや」は6年度も、学年ごとの特訓を行う。また、特に補充が必要な児童への指導を確実に進める場にしていく。そのため、担任、担任外、放課後学習サポートスタッフが協力・連携し指導に当たる。</li> <li>・ 家庭学習の習慣化に向け、家庭学習の内容について例を示したり、ノートの作り方を示したりしながら、家庭でも取り組みやすいような支援は継続し、同時に、家庭学習の時間や内容を保護者と相談しながら計画し、その計画通りに実行することができるよう啓発に注力する。</li> <li>・ 端末の持ち帰りを一層進め、家庭学習と授業の連動を図る。</li> </ul>

② 各学年の指導の重点

1年生の重点	4年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習規律の徹底。小学校での学習の約束を丁寧に指導し、できるようになるまで粘り強く指導する。特に、挨拶・返事、学習用具の使い方やノート指導、聴く態度、丁寧に文字を書くことなどは徹底して指導する。</li> <li>・ 音読に力を入れ、声に出してリズムよく文章を読んだり、理解したりできるようにする。</li> <li>・ 具体物や半具体物を使いながら数と計算を楽しみながら理解できるようにする。分かったことを自分の言葉で説明する機会を多く持ち、定着を図る。</li> <li>・ 学習規律の徹底。学校は学ぶところ、という意識をしっかりと持たせる丁寧な指導を心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真面目に一生懸命学習に取り組む集団である一方で思考力・判断力・表現力等について課題があることから、1単位時間の中で思考力を培うような学習内容を適宜組み込んでいく必要がある。</li> <li>・ 学習内容の剥がれ落ちが心配であることから、授業と朝学習、宿題を連動させ学習内容を定着させていく必要がある。今後も意図的・計画的に取り組を進める。</li> <li>・ 書く力の高まりは効果的なICTの活用によるものが大きかったので、今後も活用し、苦手意識の克服に努める。</li> <li>・ 学習規律の徹底。</li> </ul>
2年生の重点	5年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙力に弱さが見られるので、言葉を増やす、言葉を見つけた学習活動に力点を置き、読解の力も伸ばす。</li> <li>・ 授業の中で考えを「伝える」だけでなく、伝え合いの量と質を高めていく。</li> <li>・ 算数においては、量感の乏しさが課題を生んでいる傾向がうかがえるので、今後も量感、見積もりといった感覚を養う工夫を授業の中に取り入れていく。</li> <li>・ 学習規律の徹底。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書く力が高まり、書くことに対する抵抗感が薄らいでいる。これはICT活用の効果だと考えられる。今後も書く活動では適宜ICTを取り入れていく。</li> <li>・ 漢字や言葉等の知識・技能の定着に課題があるため、授業中に取り組む事はもとより、朝学習や宿題、家庭学習と連動した取組を進めていく必要がある。</li> <li>・ 算数では、基礎的な内容よりも活用の力に成果が現れている。これは日常の授業における課題提示の工夫や協働的な学びを生かした問題解決的な学習の積み重ねによるものと考えられる。今後も基礎基本の定着との両輪で高めていく。</li> <li>・ 学習規律の徹底。</li> </ul>
3年生の重点	6年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びに向かう集団としての高まりが感じられるので、今後も継続して問題解決的な学習過程を踏みながら主体的に学びを深められるようにする。</li> <li>・ 授業終末における確認問題の実施と評価の積み重ねに効果が見られたことから、今後も継続して取り組むとともに、定着が不十分な部分については家庭学習で取り組む事ができるようにする。</li> <li>・ 伝える相手や事柄の順序に気をつけながら考えや計算方法などを説明することを苦手としている。説明の方を提示するなど下位層の児童でも説明ができるよう手立てを講じていくことが肝要であるため、ICT(ロイロノート等)を効果的に活用しながら進めていく。</li> <li>・ 学習規律の徹底。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書く力が高まっており、書くことへの抵抗感がない児童が増加した。今後もICTを活用しながら書くことを楽しめるよう授業での工夫を講じていく。</li> <li>・ 読解力に課題があるので、読み取ったことをもとに書いたり答えたりする機会を増やすと共に、音読にも繰り返し取り組み、力を伸ばす。</li> <li>・ 算数では基礎的・基本的な事項に課題が見られるので、基礎・基本の定着に努める。そのため、朝学習やおたけん、チャレンジテストなどにも一層真剣に取り組ませる工夫を行う。一度ついた学力が剥がれ落ちないように繰り返し学習も行う。</li> <li>・ 1単位時間の中に学習内容の補充ができるようタイムマネジメントをしっかりと行う。</li> <li>・ 学習規律の徹底。</li> </ul>

